

立命館大学 OIC 総合研究機構 サステナビリティ学研究センター

環境省「環境研究総合推進費(S-13)」プロジェクト

シンポジウム

漁業者が語る里海の今

2017年1月20日(金)13時45分～17時20分

立命館大学大阪いばらきキャンパス B棟1階「カンファレンスホール」

参加無料、事前申し込み制(先着100名さま)



左:岡山県備前市の日生地区(瀬戸内海) 右:宮城県南三陸町の志津川湾の朝

日本は海に囲まれ、これまで海と共に生きてきました。海と私たちの接点になる沿岸海域の中でも、里海は、古くから水産・流通をはじめ、文化と交流を支えてきた大切な海域です。高い生物生産性と生物多様性が求められ、陸地でいう里山と同じように、人と自然が共生する場所でもあります。しかし、人口減少・高齢化による「消滅地域」の拡大が予測されており、沿岸海域、そして里海も例外ではありません。

今回のシンポジウムでは、宮城県の三陸沿岸にある南三陸町と、岡山県の瀬戸内海沿岸にある備前市日生(ひなせ)地区で、それぞれ里海づくりにたずさわっている漁業者の方をお招きし、ご来場のみなさまとともに、里海の今について議論することが出来ればと考えます。

主催:立命館大学 OIC 総合研究機構 サステナビリティ学研究センター

環境省・環境研究総合推進費(S-13)テーマ4

共催:公益財団法人 国際エメックスセンター 後援(予定):水資源・環境同好会

※立命館大学大阪いばらきキャンパスは、キャンパス内全面禁煙となっております。
また、駐車場・駐輪場の用意が出来ませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
JR 茨木駅(東口)より徒歩6分、阪急電車・大阪モノレール南茨木駅より徒歩15分、
京阪枚方市駅・阪急南茨木駅より、京阪バス「9号系統」で立命館大学(岩倉公園前)下車すぐ

※本シンポジウムは、環境省・環境研究総合推進費(S-13)の支援によるものです

プログラム案(12月5日現在)

時刻	内容
13時30分	開場および受付開始(会場入口前)
13時45分～14時00分	開会挨拶ならびに 環境省・環境研究総合推進費(S-13)テーマ4「沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示」の概要紹介 仲上健一(テーマ4代表、立命館大学政策科学部特別任用教授)
14時00分～15時40分	【第1部】テーマ4の研究成果発表 ①漁業者への意識調査結果(小幡範雄・政策科学部教授) ②生態系サービスの経済評価(高尾克樹・政策科学部教授) ③サステナビリティ評価(上原拓郎・政策科学部准教授) ④環境教育の効果測定(桜井良・政策科学部助教) ⑤沿岸域の多段階管理(日高健・近畿大学教授) ⑥里海物語(印南敏秀・愛知大学教授) ⑦対馬・五島における海洋保護区(清野聡子・九州大学准教授)
15時40分～15時55分	休憩
15時55分～17時10分	【第2部】パネルディスカッション ①事例紹介(20分) 宮城県漁業協同組合志津川支所 運営委員長 佐々木 憲雄さま 日生町漁業協同組合(岡山県) 専務理事 天倉 辰巳さま ②パネラーおよびご来場のみなさまとの議論 パネリスト: 佐々木憲雄氏、天倉辰巳氏 柳哲雄氏(S-13プロジェクトリーダー、国際エメックスセンター特別研究員) 小松輝久氏(S-13 テーマ2代表、東京大学准教授) 第1部の研究成果発表担当者 コーディネーター:仲上健一
17時10分～17時20分	閉会挨拶 柳哲雄氏(S-13全体代表、国際エメックスセンター特別研究員)

※17時30分～19時00分、研究交流会を開催します(キャンパス内、会費4,000円予定)

参加のお申し込みについて(電子メールまたはFAXでお願いします)

参加をご希望の方は、お名前、ご所属、メールアドレス、FAX番号(FAXでお申し込みの方のみ)、研究交流会への参加希望の有無を明記の上、下記の担当者までお申し込みください。なおメールの場合、スムーズな受付のため、件名を「1/20 シンポジウム参加申込」として頂きますよう、お願い申し上げます。

本件担当:立命館大学 OIC 総合研究機構 サステナビリティ学研究センター 専門研究員 吉岡泰亮
電子メール: tyt14500@fc.ritsumei.ac.jp FAX 番号:072-665-2565